



イフジ産業の鶏卵相場予想

2022年 7月 の鶏卵相場予想

215円

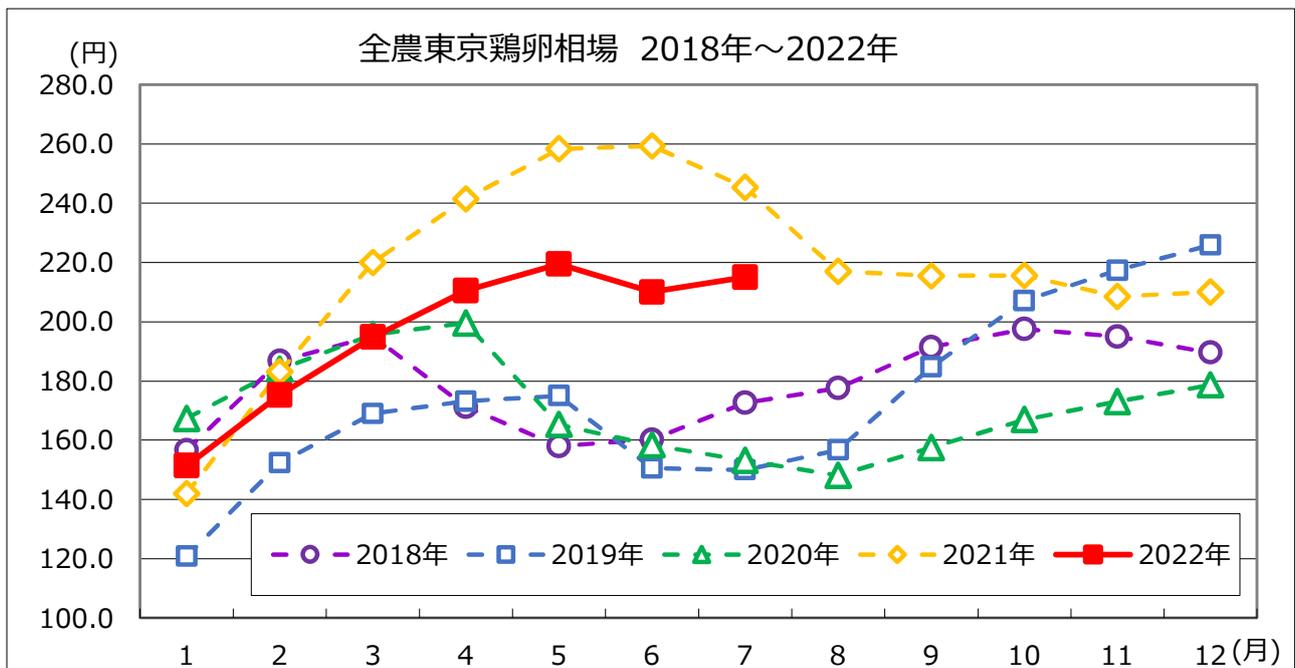
(全農東京相場LM加重平均)

6月の相場ですが、前月の相場を引き継ぎ、Lサイズ・Mサイズともに215円からスタートしました。その後、6月16日に両サイズともに5円下押しとなり、現在まで保合が続いております。(2022年6月27日時点のLM加重平均は210円)

供給面では、堅調な生産となっていました。早くも梅雨明けとなり急激に気温が上昇しており、生産への影響が少なからず見受けられます。また、変わらず世界情勢悪化による穀物高騰(飼料高)や、燃料・運賃・包装資材など諸経費上昇が大きな負担となっています。引き続き生産意欲の低下が進んでいくものと考えられます。需要面では、梅雨時期・気温上昇もあり季節的要因で減退しているように感じます。そのため、生産者の状況は厳しい環境ではあるものの、相場は若干の下押しとなったと思われます。6月の月間LM加重平均は212.89円(2022年6月27日までの平均値)

さて、7月の相場予想ですが、供給面では記録的な暑さが続くものと見られ、産卵率や卵重低下や羽数減少の影響が懸念されます。また、7月以降は飼料価格が更に上昇し(全畜種平均で4~6月期に比べ1万1,400円/トンの上昇、3四半期連続で過去最高を更新)、例年ならば余剰感のある季節となりますが、より生産抑制が進む可能性があります。一方需要面ですが、需要減退となる季節となります。7月以降は鶏卵原料の使用製品の値上げも予定されているため、消費動向によって需要面は変化するものと考えます。一定の需要減退は考えられるものの、生産量減少に生産抑制の傾向も加わり7月前半は保合で推移し後半には上昇に転じるのではないかと推察します。7月の月間LM加重平均は215円付近と予想いたします。

飼料高騰が続くなか、本年4月の全国餌付け羽数は前年91.6%と落ち込んでおり、今後も羽数減少が考えられます。特に秋口以降の繁忙期に影響を及ぼす要因であり、供給面の逼迫や鶏卵相場の更なる高騰も考えられるため、不透明な状況が続きます。



※2022年6月の相場は6月27日までの平均値。7月は予想値。
 ※予想は当社独自のものであり、あくまで予想です。
 ※この情報に関するお問い合わせ等はご遠慮ください。

Egg ×
Something =

「タマゴテック」でライフスタイルの殻を破る

